

# 造

五年

回数 10  
筆順

ノ、ハ、生、告、造  
ソウ  
つくひる



「神に牛を犠牲としてささげ、いのりのことをづける」という意味の「告」と、「進む」という意味の「ノ」とを組みあわせて作った字です。

昔は、大きな建物を造る場合には、その事を「神前に進んで、告げる」ならわしがありました。それで、「建物を造る」という意味の字を、「進」と「告」とで表しました。「建物を造る」ことを「建造」とか「造営」とかと言います。

今は、「建物を造る」ことに限らずに使いますが、同じ「つくる」と読む字でも、「作る」よりも、大きな物を「つくる」場合や、大じかけで物を「つくる」場合に使います。

成り立ち

使い方

▽母が生まれた家は、代々、酒を造る仕事をしていたそうです。

▽社会科見学で、お菓子を製造する工場へ行って来ました。

▽ぼくたちの先生は、西洋音楽にとっても造詣の深い先生です。

熟語例

▽建造（主に建物を造ることを言いますが、大きな船を造ることも使います。例 汽船の建造）

▽製造（製も「つくる」こと。機械を使って、同じ品物をたくさん造ることに使います。）

▽改造（改め造ること。悪い所を改めるよう、造り直すこと。例 台所を改造する。）

▽創造（創は物事の初めの意味。世の中にそれまで無かった物を初めて造り出すこと。）

▽構造（構は組み立て（かまえ）。造られた物の組み立て。仕組み。「造り」とも言います。）

▽造詣（詣は奥深く至るという意味。学問や芸術などに深く通じていること。）

# 像

五年

回数 14  
筆順

イ、仏、俣、像、像  
ゾウ



「かたどる」という意味の「象（年54）」と、「イ」とを組み合わせて作った字です。

「人をかたどったもの」という意味の字です。人の形やすがたをかたどって作った「肖像」や、「絵姿」ばかりでなく、「仏像」や、「動物などの像」などを表した字です。

成り立ち

使い方

▽上野公園には、西郷さんが犬を連れて散歩しているすがたの銅像があります。

▽家の居間の壁には、お父さんのおじいさんの肖像画がかかっています。

▽わたしは、写生画を書くよりも、想像画を書く方が好きです。

熟語例

▽肖像（肖は似せる意味。人に似せて作った彫刻などのこと。石膏や木や石や銅など、いろいろな材料で作られますが、絵の場合は「肖像画」と言います。）

▽銅像（銅で作られた肖像のこと。）

▽石像（石で作られた肖像のこと。）

▽塑像（粘土や石膏で作られた肖像のこと。）

▽胸像（胸から上だけの肖像。）

▽偶像（偶も像も「人の形をかたどったもの」の意味の字ですが、「神仏をかたどったもの」の意味に使われています。例 偶像崇拜（偶像を神仏そのものと考えて敬い礼拝すること。））

▽想像（見たことの無い物を、心に思いえがくこと。）